

平成 25 年度 公共事業評価委員会 議事概要【公表用】

日 時：平成 25 年 11 月 22 日(金) 11:00～12:30

場 所：徳島県庁 10F 特別大会議室

出席委員：村上会長，上月委員，福島委員，佐田久委員，山中委員

事務局：〈農林水産部関係〉

吉田農林水産部長，峯本農村整備振興局長，伊藤林業飛躍局長
水産課長，農村振興課長，農業基盤課長，森林整備課長

【総括説明 公共事業評価の取組みと重点審議】

(村上議長)

農林水産部所管事業については、提案のあった 6 件について重点審議をすることで進めたいと考えております。委員の皆様のご意見ございませんか。

(各委員)

特になし。

【再評価番号 1 中山間地域総合整備事業 牟岐】

(上月委員)

協議・調整を進めてきた結果、調整が整ったとあるが、何の調整がうまくいったのか。

(農村振興課)

農業情勢が厳しくなる中、事業参加を見合わせようと言う農家が出てきたことから、効果発現が見込めなくなった一部の箇所について、整備を進めるか中止するかを、地元の関係者と調整をしてきた。その結果、いくつかの箇所で整備を中止し、残りの箇所を実施することで、平成 26 年度完了を目指す協議が整った。

(山中委員)

生活用水確保効果が 6 割ぐらい占めているが、どのような計算になるのか。

(農村振興課)

生活用水確保効果とは、営農飲雑用水施設が整備されることにより、生活に必要な上水道を利用することが出来る効果。算出方法は、代替的な上水道の確保に必要な年間経費に受益戸数をかけて算出している。

(山中委員)

代替的な上水道とは。

(農村振興課)

簡易水道を作った場合にこれだけの費用がかかるということ。

(山中委員)

整備前はどのようにしていたのか。

(農村振興課)

個別に簡易に谷からパイプを引いていた。

(山中委員)

維持管理費節減効果の中に、営農飲雑用水による使用料は入っているのか。

(農村振興課)

維持管理費節減効果には含まれていない。

(福島委員)

見直し後、事業費や便益はどうなるのか。

(農村振興課)

事業効果については、それぞれの箇所毎に効果を算出し、効果が1以上出ていることを確認している。変更前後のB/Cについても確認を行い、資料に添付させていただいている。

(福島委員)

削減することによって、他の所に影響することはないか。

(農村振興課)

それぞれの地区で独立して効果を計算しており、影響はありません。

【再評価番号4 かんがい排水事業 上板】

(上月委員)

用地について了解を得るまでに時間を要しているとあるが、今後の見直しについて教えて欲しい。

(農業基盤課)

用地の買収が出来ていない所については、農地が斜めに分断され農地の形状が悪くなることから、理解が得られていない状況がある。このことからルート変更も視野に入れながら地権者との協議を重ねてまいりたい。

(上月委員)

当初から斜めにルートが引かれることがわかっていたと思うが、当初から地権者への配慮をしていればと、今になってみれば思う。

(農業基盤課)

当初は、既設の暗渠を改修していくと言うことで、既設のルートのままでと考えていた。しかし、同意が得られない状況からルートの見直しも視野に入れることが必要と考えている。

(山中委員)

暗渠を直した後、地上部の利用はどうするのか。

(農業基盤課)

維持管理のために、管理道路として利用する。

(山中委員)

すでに道路は出来ているのか。

(農業基盤課)

未舗装だが道路の形は出来ている。

(福島委員)

ルート変更すると事業費が増えると思うが、B/Cはどうなるのか。

(農業基盤課)

ルートを見直すと、延長が長くなり工事費は増加すると思われれます。ただ、道路沿いになると用地買収費は軽減されると考えられます。それらを含めルート見直しの中でB/Cを確認しながら進めてまいりたい。また、コスト縮減についても工法を選定しながら進めてまいります。

(佐田久委員)

新しくルートを見直すとなると、見直して継続になるのでは？

(農業基盤課)

現時点において、地権者に新たなルートの話は出来ておりませんので、継続とさせていただきます。今後、ルート変更で地権者の了解が貰えるなら、見直しを行っていきます。

(佐田久委員)

了解。

【再評価番号 1～6 農業農村整備事業】

(福島委員)

進捗グラフについて、用地買収に力を入れた年と工事を進めた年とでは、必要な経費は違うように思うが、事業費で進捗の状況を図るのは一般的なのか。

(農村振興課)

進捗状況のグラフについては、農業農村整備事業については、いろんな工種があることから、事業費で進捗を表している。用地買収で時間がかかれば事業費は少なく、用地買収後、工事を始めると事業費の額は大きくなる、このようなこともグラフから読み取れると思います。

【再評価番号 10 林道開設事業 長安海川線】

(山中委員)

全体的に林道のB/Cの説明において、それぞれの項目のどんな面積やどんな単価を使っているのか記載されていないので、記載して欲しい。

事業によっては、森林整備促進便益が大半を占めている。将来にわたって間伐を行い、ちゃんとした林にしていくという便益だと思うので、将来にわたり維持をしていきながら、効果は相当先に見えてくる事業なので、ちゃんと説明しながらやっていただきたい。

(森林整備課)

ご指摘のとおり今後対応させていただきます。

【再評価番号 14 林道開設事業 禅僧線】

(佐田久委員)

平成16年から始まっているにもかかわらず、起点から見直しをしなければならぬと言うことは、はじめの話が甘くないですか。

(森林整備課長)

用地問題もあって比較的時間がかかりましたが路線の線形変更を行い事業実施が出来るようになりましたので、御理解いただきたい。

【再評価番号 16 林道開設事業 梶山内田線】

(上月委員)

林道が時間がかかるのは理解していて、進捗に伴って施業が進んでいることもわかりました。しかし、B/C が 1.07 と 1 に近く、次回も事業評価にかかる。そこで、B/C がもし 1 を切ることがあっても事業の必要性を理解してもらうためには、どのようなことが考えられるのか。

(森林整備課長)

便益については、他の項目等、算出されるべきものもあろうかと思いますが、国のマニュアル等において、計上できるものがあれば説明していきたいと考えている。

(上月委員)

県土整備部では、大規模事業の見直しについて等、議論がされているが、農林水産部は、この問題が非常に大きいと思うので、検討された方が良くと思う。

(森林整備課)

林道の問題点として説明しましたとおり、森林の境界が明確でないことが林道及び森林整備の実施に影響を及ぼしています。このことから、森林境界の明確化を実施しているところです。今後、境界の明確化が進むことにより必然と森林整備が促進され、おのずと B/C が上がります。

(佐田久委員)

現場視察において、杉の製材を高性能機械を購入して作業の合理化を図っている現場を初めて拝見しました。若い世代の U ターン、I ターンなど帰ってきていると聞きまして、嬉しいなと感じました。技術者を養成するためにも、こういった予算を出来るだけ取れたら良いのではないのかと感じました。

(森林整備課長)

現場を見ていただいたときに、若手の技術者も育っていたと思いますが、次世代林業プロジェクトの中心の課題でございました、技術者を養成することにも力を入れてございます。これからも進めてまいりたいと思います。

【再評価番号 20 海岸保全施設整備事業 樫泊漁港海岸】

(村上議長)

質問・意見ございませんか。

(各委員)

特になし。

○再評価：2, 3, 5～9, 11～13, 15, 17～19 意見無し